

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530016		
法人名	株式会社 介護福祉計画		
事業所名	グループホーム猪苗代 1階		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町大字蚕養字沼尻山甲2855番地		
自己評価作成日	平成24年8月22日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>緑に囲まれて自然を満喫出来る事、ホームで畑を耕したり出来た作物を収穫出来ます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1 事業所は緑に囲まれた自然豊かな環境にあり、利用者は四季折々の自然を満喫しながら穏やかな生活をおくっている。さらに職員と共に菜園で野菜や草花を栽培し、収穫した農作物を活用した季節感のある食事を楽しんでいる。 2 職員の資格取得には法人としての支援制度があり、全職員が自己研鑽に努め向上意識も高く日々のケアに努めている。 3 開設時から入居されている利用者も多く、職員とのコミュニケーションが円滑に行われており、笑顔の多い明るい雰囲気のある事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関及び事務所等に提示して、職員一同その理念を共有して実践している	理念は「利用者が地域で笑顔あふれる生活を送ること」を基本としており、さらに事業所独自の基本方針も策定している。玄関や事務所に掲示し、全職員が理念を共有してケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動、温泉祭り等に積極的に参加している	地域の行事(温泉祭り、清掃活動等)へ積極的に参加し交流している。利用者は公民館活動の「学びーな」に参加し地域住民と交流している。ボランティア(民謡会・手打そばの会・読み聞かせの会等)も多く受け入れており、保育園との交流は恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と一緒に奉仕作業を行ったり、地域の行事に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営推進会議のメンバーから意見を頂きサービス向上に努めている	運営推進委員には地域の各分野から選任され、町役場職員と地域包括支援センター職員も毎回参加し活発な意見交換がされ事業所運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と連絡を取り相談してサービスに活かし、町の作品交流会にも参加させて頂いています	町役場職員が運営推進委員として毎回会議に参加し、行政と事業所の連携が図られている。利用者には生活保護受給者もあり町役場職員と連携して対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関にチャイムを設置し、戸が開けば職員が気付く様に日中は鍵を掛けないケアをしている ・身体拘束の禁止は職員一人ひとりが心がけて取り組んでいる	日中玄関の施錠はなく職員の見守りにより対応している。全職員が拘束のないケアに努めており、「言葉の拘束」にも十分気を配り、意識を共有して日々のケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全体会議での内部研修を行い虐待防止に努めている ・入浴時には皮膚観察を行い虐待が見過ごされないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解しているとは言えず、支援体制が十分だとは言えない為、今後勉強会など設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分な時間を取り説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様から日常の会話に耳を傾け家族会や面会時に意見や要望を聞いています	家族の訪問時には面談の機会を作り意見の把握に努めている。また、年2回開催される家族会の行事等を活用し、家族の意見を把握している。把握した意見等は全体会議等で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を開催し職員の意見や要望を聞いてサービスに反映出来る様に心がけている	職員は管理者にいつでも何でも話せる環境となっており、さらに月例の「全体会議」では全職員が提言できる体制が確保されている。職員の意見はこれら会議で検討され可能なものから事業所運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況を把握し話し合い、各自が向上心を持って勤務出来る様に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの状況に応じた研修会等に参加し、全体会議で伝達研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連企業のグループホームとの意見交換やグループホーム協議会の研修会等に参加しサービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様の意向や本人の思いを良く聞き、安心してサービスの利用が出来る様に信頼関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と十分に話し合い連携を取りながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様にとって最優先にしなければならない支援を把握し、可能な限り本人と家族の思いに柔軟に対応するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の嬉しい事、悲しい事、辛い事を共感しながら支えあう関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、誕生会等の機会や面会時でよく話を聞き、家族の思いを受け止めながら入居者様を支援するように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡や手紙のやり取りなどを途切れないように支援に努めている	なじみの理美容院の利用には事業所への訪問を受け入れている。家族の協力を得て買物や食事等に出かけており、なじみの関係が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間にはスタッフが入り、お互いの入居者様の会話を盛り上げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後いつでも連絡頂ける様に関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話から意向を見出し一人ひとりの希望に添えるように努めている	日々のケアの中で些細なしぐさや会話の中で利用者の意向や希望を収集している。お習字や七夕の短冊に希望や意向を書いてもらい把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や御家族面会時に、これまでの生活歴を聞き、現在のケアに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録日誌、介護日誌、申し送り等により日々の変化を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングし、サービス担当者会議で家族等必要な関係者と話し合い意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を決めており日常の状態を詳細に把握している。3か月ごとにモニタリングを行い実情に沿った計画の見直しを行っている。利用者の状態に変化があった場合には、随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等は必ず記録しスタッフ間での情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応し、柔軟な支援やサービスの提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの支援や保育所の行事参加等、地域の人々にご協力頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1週間に一度(水曜日)定期的な往診体制が整っている	かかりつけ医の受診を支援している。透析を受けている利用者への送迎は受診医療機関が対応している。専門医への受診には家族の対応を基本としているが、職員の同行により行っている。毎週協力医療機関から往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に一度(月曜日)定期的な訪問看護の体制により、入居者様が適切な受診と健康管理がなされている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報交換をし、状況を把握し受け入れ態勢を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に対して家族や医師と話し合い方針を共有化している	「重度化・看取りに関する方針」を策定しており、利用者、家族に説明し、書面で同意を得ている。利用者の状況の変化に応じてその都度家族・医師、その他関係者で話し合い、家族の希望に添った対応を全職員が共有して実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは応急手当や初期対応の講習を受ける等して実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時の避難方法を全職員が身に付け、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いの訓練を実施しており、地元消防団の参加もある。事業所独自に通報訓練等を行なっているが職員のみでの避難誘導の訓練は少ない。非常時の水・食料品・缶詰・おむつ・寝具などは備えている。	あらゆる非常時を想定し、全職員が利用者を的確に避難誘導できるよう訓練を重ねられることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライドを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴時の誘導の声掛け等には十分注意を払っている。個人情報の管理についてもマニュアルや研修を通して全職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや一人ひとりに合った希望の表出や自己決定出来る様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて寄り添った介護をし、その中で希望を聞いたり読み取ったりして、その人らしい暮らしが出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合ったその人らしいおしゃれが出来る様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様と一緒に調理や食事準備、後片付け等を行い、一緒に食事を取りながら支援している	食事は利用者、職員ともに食卓を囲み会話を楽しみながら摂っている。献立は利用者の希望を聞きながら職員が季節の食材を多く取り入れ作成しており、週2回の食材の買い出しも利用者の楽しみとなっている。外食会や誕生会・行事食等も計画し実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々に合った食事量、水分量の提供をし摂取量をチェックしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて声掛けし、見守りや介助をして口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活かし、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援をしている	「排泄チェック表」を活用し、利用者の排泄パターンやしぐさ等を感じ取りながら誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。オムツ利用者も誘導によりオムツ使用の軽減につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防としては水分摂取や運動等、入居者様個々に合った働きかけを行っている。また、便秘への対応としては医療との連携を図り、下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて入浴できるよう支援に努めている。また、色々な入浴剤を使用するなどして入浴を楽しめるように努めている	入浴は利用者の希望に応じて支援している。入浴剤を利用し気分転換を図って楽しんでいる利用者もいる。週2回以上の入浴を基本としており、菖蒲湯・ゆず湯等の季節風呂も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望によって適度な休息を取って頂いているが、昼夜逆転にならない様に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容に常に目が通せるようにケース記録にファイルしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の状態に応じて、針仕事、畑仕事、新聞折り、山菜採り、洗濯物たたみ等意欲を引き出すような支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はなるべく散歩や買い物に出掛けられるよう支援しています	お花見・温泉祭り・グループホーム同士の交流会・白鳥見学・利用者の買い物等外出の支援している。隣接の菜園で利用者と職員が共に野菜や草花を栽培し楽しんでいる。好天時には近隣散策を日課にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームでお預かりしているが、いつでもお金が使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも電話のやり取りが出来る様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同作品や季節の花を飾り、居心地良く過ごせる共用空間作りに努めている	共有スペースは明るく心地よい空間となっている。壁には利用者の作品、行事の写真、花等が飾られ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。特に2階ユニットは窓から季節の風景を楽しむことができ窓は掃き出しとなっており、災害時の一時避難には有効なエリアとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、観葉植物等を配置し、入居者様同士がより良い関係を保てるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの物を持って来て頂き、自宅で生活していた時と極力近い環境で生活出来るよう配慮している	居室は空調機と暖房機及び洗面所が設置されている。居室はなじみの品(ベット、箆笥・テレビ・仏壇等)の持ち込み自由となっており、自宅での生活と変わらぬ空間を確保している。希望により布団での生活にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お茶は、いつでも飲めるようにポット、カップを用意している		